



AIYES 通信

横浜スペイン交流協会会報

1998年1月1日発行 第14号 発行・横浜スペイン交流協会事務局

※※※※ 年頭のごあいさつ ※※※※

あけましておめでとうございます。
新しい年を迎え、皆様方には益々ご清栄のことと
お慶び申し上げます。

日頃、当協会の事業の推進にあたり、多大な御協力と
御理解を賜り心より厚く御礼を申し上げます。

会長 下山 貞明



このたび、2月に当協会のシンボル事業として、スペインへ第
3回「さくら植樹」を宮城スペイン協会と共催で実施いたします。

前回（1995年11月）は、セビリア市、コリア・デル・リオ市、
ロンダ市へ「さくら」の苗木を贈呈することで準備をいたしまし
たが、EUの植物防疫の厳しい規制によりやむを得ず、仮植樹を
いたしました。

今回（1998年2月）は、EUの植物防疫委員会通達の指示に従い、約1年前に「さくら」の
苗木を（財）日本花の会へ委託、農場において育成し、すでに第1段階の検疫が終了したとこ
ろです。



今回の植樹にあたって当協会では、すでに最悪の事
態を考慮して「さくらんぼ」の苗木を現地にて調達し、
それを台木として「さくら」の枝を接ぎ木することを
考えております。

幸いにも、第1弾としてロンダ市に植樹した「さく
ら」の苗木数十本が成長し、4月頃には桜の花が咲く
ことでしょう。

今後とも皆様方には協会の各事業にできる限り参加
して戴き、更に充実した楽しい協会にみんなで育てて
戴きたいと存じますので、どうぞよろしく御協力をお
願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方の御健勝と御発展を心
から祈念いたしまして、年頭の挨拶といたします。

★ 島津 豪亮 ・ 画

スペインに桜を！

第3回スペインさくら植樹友好親善旅行に30余名の参加を募る

1997年の横浜スペイン交流協会の活動の方針は、会員相互のふれあいを拡大し、そのうえ多くの友人たちとの交流を実現することであった。

その活動の先にある第3回さくら植樹の交流を成功させるために、全役員が総力を挙げてフル回転することになった。

5月の総会で1998年2月の第3回さくら植樹の計画が承認されてから、すばやく行動に入った。まず会報13号を発行し全会員に周知を図る。ついでアンダルシアにおけるヨコハマデーのイベントとして、ヨコハマを紹介する写真展と押し花を企画。

スペインサロンでは“不思議な押し花”の講習会を3回連続で開催、丸山稚香子会員のご指導により毎回20名余の方々が腕を磨いた。また、伴野芳信会員が中心となり、折り紙で交流することを計画。

一方、セビリア市については、宮崎理事を窓口にして財団エル・モンテの支援を取り付け、ヨコハマデー開催の目途がついた。

今春2月のスペイン友好親善旅行では、セビリア市で市民レベルでの確かな交流が始まるであろう。しかしスペインに200本のさくらの苗木を日本から持参するのは困難な政治状況にある。EUは日本の貿易障壁の問題に絡めてきており、今回も日本からさくらの苗木を持参できそうにない。したがって今回も第2回さくら植樹と同様に池本三郎理事のご指導によりさくらの接ぎ木をすることになるであろう。

セビリアとロンダ両都市での行事が終われば温暖なコスタ・デル・ソルの観光が楽しみだ。

旅程最後の2月15日にはマドリッドで、私たちの旅行団を駐西日本大使公邸に招待してくださるので、その夜に坂本大使ご夫妻と松本一等書記官ご夫妻をお迎えして夕食会を開催する計画である。会費は10,000円の予定。詳細については1月17日の結団式兼旅行説明会でお知らせできる。

親善旅行申込締切は1月7日。多くの方々の参加をお待ちしている。

利用予定ホテル情報（第3回『さくら植樹』友好親善旅行）

- ◎ マドリッド：ホテル カステリャーナ インターコンチネンタル ★★★★★（創業1953年・改装1992年）
カステリャーナ通りに建つ高級ホテル。ロビーはクラシックで上品なムードがあふれ、客室も明るい。
313室。
- ◎ セビリア：オキシデンタル ボルタ コエリ ★★★★★（創業1977年・改装1988年）
新市街、サッカー場近くにあるモダンな高級ホテル。インテリアも洗練されていて雰囲気も良い。
250室。
- ◎ ロンダ：パラドール ナショナル デ ロンダ ★★★★★ 1761年に建てられた昔の町役場を改装して1994年に開業した新しいパラドール。ヌエボ石橋のすぐそばにあり、3階までの吹き抜けのサロンは見事でゆったりとくつろげる造り。客室の窓から見おろす深い溪谷のながめは壮観。78室
- ◎ マラガ：ホテル ラリオス 39室

第4回写真展の入場者1,051名・交流の輪さらに広がる

11月16(日)から23(日)まで、かながわ県民センターで第四回スペイン写真展を開催。第一部は横浜ブーミング倶楽部のご好意による、横浜からアンダルシアに向けて、ヨコハマの魅力を紹介する四ツ切りサイズ50点の写真を特別展示。

第二部は私のスペインの思い出のコーナーで、大変バラエティーに富んだスペイン旅行写真の展示であった。

展示作業日を入れて9日間の長丁場であったが、多くの会員とそのお友達の支援を得て、スペインに関心のある大勢の方々をお迎えして交流ができたのは大成功。

会場でのさくら交流基金の募金には、60,800円もの寄金を頂戴。17日にはスペイン大使館トレード一等書記官がご来場。ヨコハマの写真を熱心にご覧になった。

※次回スペイン写真展への課題と所感※

今回は会員からの出展はわずかに20名で46点の出展であった。今回の写真展はスペインの思い出の写真であれば、どのような写真でも展示する方針であったが、趣旨が十分説明できなくて理解していただけなかったようであり反省する次第である。

次回は写真の原点である記録性を重視して、個人の思い出の写真を部を設ける。(他人に写してもらったものを含む)そして写真のサイズは経済的な2LLとし参加しやすいように企画したい。

当協会の写真展は会員のための交流の機会を作ることに意義がある。写真が上手い下手などはどうでもよい。今回の交流の機会を逃した方は、写真展のみでなく今後の協会のいろいろなグループ活動に参加なさり、会員相互の出会いを体験していただきたいと思う。(事務局長・朝倉 蒨)

☆ アディオス1997・フラメンコショーに感動 ☆☆☆

独特の雰囲気の中で感動する。

喜怒哀楽・愛・恋・色気・気だるさ・情熱・迫力・繊細さ。ショーが終わりディレクターの小島さんに『人生の縮図ですね!』と興奮しながら言ったら『その通り、人生です』 感動。納得。
伴野 芳信

* 華麗に艶やかに巧みに

『アトランタ フラメンコショー』

1997年 AIYES 活動の最後を飾る年末のイベントとして、これまでパーティーやディナーショーを開催してきたが、今年初めて、さくら植樹基金募集を兼ねた純粋なショーを楽しむ会を実施した。12月4日夜、場所は石川町のエル・プラザ。スペインワイン付の粋なショー。招いたのは、3年前のディナーショーで感動のトップ級の演技を披露して賞賛を浴びたアトランタの皆様。舞踊のミチコ・メメさん、カンテのかとうなおじろうさん、ギターの恩田昌則さんが再び登場。そして今回は新しく、ギターのベテラン高橋紀博さん、舞踊の今井協子さん、入交恒子さん、古谷真理子さんが加わり、7名の強力なメンバーがかもし出す華麗なハーモニー、高い芸術性、巧みな演技で会場はしばし夢と感動にひたった。

神奈川新聞、毎日新聞に事前に記事が掲載されたことも幸いして、200名分準備した席はほとんど満杯となった。会員の参加がこれまでのイベントで最も多かったのが今回の大きな収穫であった。参加者からは年末のイベントは恒例にしてほしいという声が非常に多かった。
(事務局・中村 瑛子)



*アトランタ フラメンコショーに参加して

ラウラ島崎

「アトランタ フラメンコショー」は全体によくまとまって、素晴らしいと思いました。皆さん迫力があり、顔の表情も豊かで、ブラセオ・サパテアード・スカートのさばきも大変良く、「バイレ・デル・コラソン」(気)を感じました。皆さんそれぞれ自分に合った曲を踊られたのがよかったと思いました。

全体の音のバランスのとり方も良かった。一つ気になったことはサパテアードの時、頭が上下に動いたことです。私が習った頃は先生から厳しく注意されていたので、今のフラメンコはそういう踊り方をするのかしら?ギターは2人共とてもよかったと思う。カンテは声は良く、いうことなしですが、スペイン語の発音が少し気になりました。

日本でこれ程フラメンコが盛んなことに驚きました。



ラウラ島崎さんのプロフィール Laura Shimazaki

4歳から日本舞踊を花柳流の先生に師事。10歳からスペイン舞踊及びフラメンコフェリッペ サンタ マリナ、グロリア ベラスケス、ローラ ラモス、カルメン アマヤに師事。17歳で、ペルーフラメンココンクールで優勝し、マエストラの称号を頂く。ペルーでフラメンコ教室を開き、現在に至る。

ザビエル・パンプローナ・

そして王子尚三氏と「さくら」と山口公園 【Vol. 11】

—— 飯塚 劭 ——

◇ 1995 年 10 月 29 日、パンプローナへ

丸善で見たトーマス・クックの時刻表では、マドリード・チャマルティン駅を朝 7 時ちょうどのインターシティに乗ると、パンプローナには午前 11 時 48 分に着くことになっていた。

私と私のかみさんそれに朝倉さんご夫妻、画家の島津氏の一行 5 名は世界に名だたるトーマス・クックの時刻表に何の疑問も抱かず、マドリード・チャマルティン駅に急いだ。

なにしろ 7 時ちょうどの発車だ。その前に乗車券を買わなければならない。目的の乗車券が買える窓口を探す時間、そしてもしその窓口が混雑でもしていようものなら、乗車券購入までにかかなりの時を要してしまうだろう。そんなもしもの事を考慮して、遅くとも発車 30 分前くらいにはチャマルティン駅に到着していなければ、というのが私たち一行の計画だった。

マドリードでの私たちのホテルはスペイン広場にほど近い、グランピアに面したところにあった。そのため、チャマルティン駅までにはかなりの距離がある。しかし早朝でもあるし、タクシーさえ拾えれば、15～6 分もあれば充分だった。しかし、これを逆算すると遅くともホテルを 6 時 10 分ころまでには出なければならないことになる。当然ホテルのレストランはまだ開いてはいない。

「どうせ駅にバルがあるから、時間があつたらそこで食べましょう。最悪、朝食をとる時間がなかったら、何か口に入るものを買って列車の中で食べればいいでしょう」

私がそう言うと、全員がこれに賛成してくれた。

私たちのホテルは決して一流というわけではなかったが、それでも立地条件が良かったせいで、早朝とはいえホテル前に何台かのタクシーが待機していた。そのため、少なくとも空車を待つ時間は節約できた。

こうして予定どおりチャマルティン駅に到着した。パンプローナ行き乗車券売り場の窓口はすぐに見つかったが、開いていない。時計を見ると 6 時 40 分になっている。発車まで後 20 分しかない。それなのに乗車券を売る窓口が開いていないのだ。そこで、改めて駅にある時刻表で調べてみると、なんと発車時刻が 10 月 1 日から変わり、くだんの列車は 9 時ちょうど発に変更されていた。このことが分かったとたん、「それにしても腹がへった」というのが、一行全員の思いだった。

なにしろ朝食抜きで、早朝から興奮し動きまわったものだから、空腹になるのも無理はない。ところが運の悪いときはこんなもの、駅のバルさえ開いていないのだ。

こうして 8 時になった。するとようやくバルが開店した。一行は真っ先にそのバルの客となり、朝食をとった。

私たちがパンプローナに行くには理由があった。もちろん最初はパンプローナに行つてかのヘミングウェイも熱狂し、作品『日はまた昇る』にも描かれている『サン・フェルミン』の祭りに『エンシエロ』と呼ばれる牛追いの行われる町並を見ることと、パンプローナの近くにあるザビエル城を見学することであった。ところがこのたんなる観光から様相が一変する事態が生じた。

1995 年 11 月、協会が予定していた『植樹のための桜』を、検疫の関係でスペインに持って行くことができなくなってしまったのだった。そこで急遽朝倉さんの知り合いで、パンプローナ近くのタファージャという町に住んでいる王子尚三さんに会わなくなつてはならなくなつた。

◇ 1549 年 4 月 14 日、ザビエル日本へ

ここで話が、がらりと変わる。

スペイン北部、フランスとの国境近くピレネー山脈の南にナバーラという名の王国があった。現在のスペインナバーラ県である。

この王国の中のザビエル城主ファン・ハッス・ザビエルと、その妻マリア・デ・アスビルクエータ

との間に 1506 年 4 月 7 日、第六子が誕生した。その子はアッシジのフランシスコにちなんで、フランシスコ・ザビエルと命名された。後年日本に初めてキリスト教を伝えることになるその人である。

フランシスコ・ザビエルの父ファン・ハスは若いころ、当時ヨーロッパで一流大学といわれたイタリアのボローニャ大学で法律を学び、大蔵大臣を経て現在の総理大臣にあたる要職にまで付いた人物である。

ところで、1512 年フランシスコ・ザビエルが 7 歳の時、フランスとスペインとの間で戦争が起こった。そして、中立の立場をとっていたナバーラ王国にスペイン軍が攻撃を加えてきたのである。

この時、フランシスコ（以下ザビエル）の兄二人も父と共に戦った。そして父はナバーラ王とともに戦死。ナバーラ王国はスペインに占領され、ザビエル城もスペインのものとなった。

しかし、ザビエルの兄たちはナバーラ王国再興のため、何度も立ち上がり戦をしかけたが、ついには独立することなく、スペインに併合された。

ところが、奇しくもザビエルの兄たちが戦ったスペイン軍の中に、後にサビエルの運命を大きく変えることになる、イグナチオ・ロヨラがいた。

ザビエルの兄たちは彼が軍人になることを望んだが、ザビエル自身は学者になることを望んでいた。そしてすでに修道女になっていた姉のマグダレーナが兄たちを説得し、ザビエルは学問をつづけることができた。

1525 年、ザビエル 20 歳。彼はフランスのパリにある聖パールバラ学院に入学し、学寮で寄宿生活を送る。その後も何度か兄たちから軍人になるよう勧められたが、いつも姉のマグダレーナがザビエルの味方となり、そのおかげで彼は勉学をつづけることができた。

このザビエルのいる学寮の同部屋に、元軍人の青年が入ってきた。イグナチオ・ロヨラである。この間いろいろあるのだがそれを書いていると、ザビエルの伝記になってしまうので、ここでは大幅に話をはしょることにする。

とにかく、1534 年 8 月 15 日、パリ・モンマルトルの丘にある聖堂地下においてロヨラを中心にして、イエズス会が結成される。もちろんザビエルもこの結成メンバーの 1 人であった。

ここでまた話をはしよらせてもらうことにして、1539 年の 8 月のことになる。

ポルトガル王はローマ教皇に宛て「東洋にあるポルトガルの領地にいる原住民に、キリストの教を広めてもらいたい」旨の願いを出す。

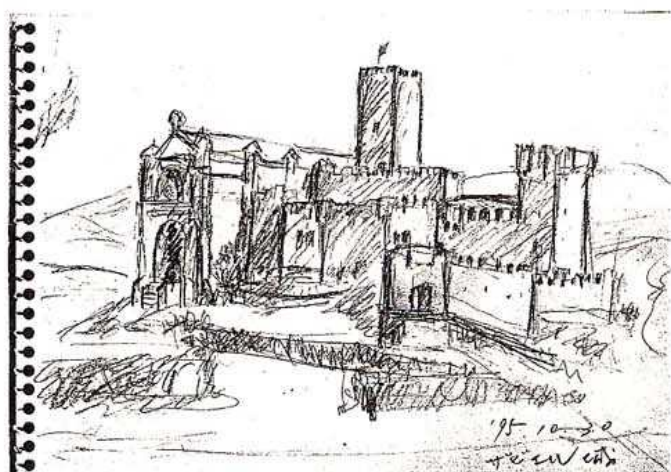
この話を聞いて、イエズス会では「教皇の命令ならどこにでも喜んで……」と申し出て、東洋布教の任をになうことになる。

ここでこの東洋布教役をロヨラより仰せつかったのは、ザビエルではなく、他の者であった。ところがこの者が病気になったため、かわりにザビエルが任命されることになるのだ。ザビエル 34 歳の時のことである。

ザビエルの東洋布教の話になると、これまた長くなるので、ここではザビエルが日本人ヤジロウとマラッカで、熱心なキリスト教信者の船長アルバレスの紹介で出会い、日本に来たことから話をつづけることにする。

ザビエルが鹿児島に着いたのが 1549 年 8 月 15 日のことであった。奇しくもこの日は、15 年前パリ・モンマルトルの聖堂地下においてイエズス会が結成された日に当たった。

日本に来てはみたものの、ザビエルのキリスト教布教は艱難辛苦をきわめる。



★ ザビエル城・（飯塚康子画）

ザビエルは日本にキリスト教を広めるには、まず大名などいわゆる上層の人間を信者にするのが早道だと考え、京に上ることにする。1550年8月のことである。

この途中、山口に立ち寄るが、この時の山口の町は大内義隆の城下町としておおいに賑わっていた。

ザビエルは毎日二回辻に立って、説教をしたと伝えられている。さらにザビエルたちはこの時、大内義隆の館に招かれ、ここで一時間余の説教をしたという。義隆はザビエルの説教中一言もことばを發せず、ザビエルの説教に聴き入っていた。だが、それだけのことであった。

1551年1月、ザビエル一行は京に到着。ザビエルは御所の門前に立って、なんとか取り次いでもらおうとするが、それもならず、ついに京での布教を諦め平戸へと帰る。

1551年4月、今度はザビエルは献上品を持って正装し、インド総督の使者として再び山口に入る。ここで大内義隆に謁見を申し入れ13種類の貴重な品を進呈した。この品々の中には当時日本人がはじめて目にしたものもあるという。ちなみに、それらは時計、オルゴール、水晶などだと言われている。

それはさておき、このことで大内義隆は大いに感激して、すぐさま町角に高札を掲げ、キリスト教の布教の許可と、これの保護を布告した。

また、ザビエルは義隆より無住の寺を与えられるが、ザビエルはここを教会堂として、この山口に6ヶ月ほどを過ごすことになる。

さて、このようなことが縁で1952年、ザビエル訪山400年記念として、旧ザビエル記念聖堂が建てられた。しかしこの聖堂も1991年焼失。しかしながら、1998年4月、イタリアのコンスタンティノ・ルジエリ神父とルイジ・レオニ氏の設計による新しいザビエル記念聖堂が完成の予定である。

かくして1980年山口市は、ザビエルゆかりのナバーラ県の首都であるパンプローナ市と姉妹都市となった。

— 次号へ続く —

スペインサロン「不思議な押し花」講習会(97.9.28)に参加して

相澤 百合子

6月の第1回は、都合により欠席。今回初めて参加。集まった方々は、あの謹厳な(?)会長を含め男性会員が数名、それもありやる気満々の様子。また、当協会スペイン語教室のヨランダ、栗山の両先生もこの日は生徒で神妙な面もち。いつもながら可憐(?)でハイセンスな女性会員の皆様等々、総勢18名。

今回は「さくら植樹」にちなんで、桜の額絵を制作。配られた材料の、はんなりとした桜の花、みずみずしい緑の葉、豊かなふくらみそのままのつぼみなど、その仕上がりの見事さに感動。半世紀も前の小学生の頃、長火鉢と新聞紙で押し花に挑戦したが、思うような色に仕上がらず、あきらめたことを突如思い出す。



相澤 百合子さん



50年後の今は、きっと何か画期的に方法があるに違いない。再挑戦したら私だってこのような素晴らしい色に仕上が리そうなの錯覚にとられる。

そうこうしているうちに、実習開始。各々思い思いに手を動かし始めたのも束の間、瞬く間に皆さん完成、しだれ桜、望月の夜の満開の桜などの日本画風。かと思うとドガの踊り子をイメージさせる作品。そのほとぼしり出るアイデアに脱帽。

日常の些事から解放されたロマンチックな半日でした。

スペイン語教室のご紹介

協会では 6 講座のスペイン語教室を開講しています。いずれの教室も会員が講師を務め、和気あいの雰囲気で行われています。その中の 2 つの教室をご紹介します。

『 『 スペイン語で新聞・雑誌を読む会 』 』 栗山由美子講師

スペイン語のクラスに出席するのも、ほぼ 10 年ぶりである。クラスはサラマンカ大学出身の栗山先生を中心に講読会とは言え、とてもオープンで自由な雰囲気である。

私が最初に気にいった点は女性が多い事、しかも私と年齢も近そうであり、まあ言うなれば『主婦感覚』のクラスらしい。男性の方は人数も少なく、もう一つ意気が上がらないが、こちらもおジン中心かそれ以上と言うところだから、これ又安心である。

しかしながらスペイン語への情熱と知識を持ち、又人生経験豊かな生徒連中だから、栗山先生のスペイン語のペダゴジックな指導を補って、さらに豊かな成果が期待できると言うもの。授業は月 1 回というのも良いじゃないですか。と喜んでいたら当方非協会員であることをコワイオバサン連中に指摘され、あわてて入会の申請をした次第。

何はともあれ、新聞・雑誌を深く読み取るのも、奥の深い楽しみではある。



山崎 宗城さん

『 『 スペイン語会話初級コース 』 』 角田ヨランダ講師

「身によくつく〇〇〇〇〇」とは残念ながらこの私たちのスペイン語教室には言えないかもしれません。今日のレッスンでのこと。

「A que te dedicas? (仕事) 今、何していますか？」ヨランダ先生が生徒一人一人に質問。

— 「看護婦(エンフェルメーラ)です」と現役の看護婦さん。

— 「書道の先生です」と F さんが答える。

— 「粗大ゴミしてます」と長いサラリーマン生活をリタイアした O さん。一同大爆笑。

ヨランダ先生は、「エスパニョルではね。家(カサ)で猿(モノ)してるって言うよ」と目をクルクルさせ、手を大きく広げて「あなた、かわいそうね!」と大笑い。

様々な環境の中から集ってきた生徒の中でヨランダ先生の太陽のように明るく楽しい個性と、みんな一緒という仲間意識をもった温かい生徒達の気持ちが溶け合って、あっという間に楽しく一時間半のレッスンタイムが終わってしまいます。なんか元気の出ってくるスペイン語教室です。

私たちのクラスのことは「心を元気にするスペイン語教室」と呼べるでしょう。心で学ぶスペイン語、本当はこれこそ身によくついてゆくのではないかと感じているのですが……。



渡辺 七恵さん



教室のみなさん。
前列中央がヨランダ先生。

∞ スペインサロンへのお誘い ∞

第 19 回スペインサロン * ロルカ生誕 100 周年記念行事参加

『 ロルカの詩を楽しむ会 』

講師 : 横浜国立大学名誉教授 小海永二先生

1998 年はスペインの吟遊詩人ロルカ生誕 100 周年にあたるため、日本国内でも多くの記念行事が計画されています。当協会ではロルカ研究の大家、小海先生をお迎えしてロルカの詩を楽しむことになりました。小海先生にはスペイン語による詩の朗読のコレクションから主要なロルカの作品について、解説をしていただきます。

日時 : 1998 年 1 月 10 日(土) 開場 13:30 講演 14:00 ~ 15:30

会場 : エル・プラザ 9 階 特別会議室 横浜市中区寿町 1-4

交通 : JR 石川町駅下車(徒歩 5 分)

会費 : 実費負担(2,000 円程度)会場にてお支払い

* 申込方法 : 下記へ。(定員 20 名にて締切)
☆朝倉しとみ ☆宮川美句子
☆石川美知子

ロルカ生誕 100 周年を迎えて 横浜国立大学名誉教授 小海 永二

今年 1998 年は、二十世紀後半のスペイン文学を代表する 1 人である詩人・劇作家のフェデリコ・ガルシア・ロルカの生誕 100 周年に当たります。ロルカは南スペイン・アンダルシア地方の民衆の伝統を二十世紀によみがえらせ、スペインのみならず世界の詩と演劇に革新的な達成をもたらした作家です。彼の作品には詩と演劇の見事な総合が見られます。この生誕 100 周年を記念して、本国スペインでは、「ロルカ財団」が中心になって、ロルカの果たした役割を明らかにし、その業績を顕彰するために、展覧会、映画会、演劇の上演、研究資料の出版等、幅広い行事が全国的に行われることになっています。また、日本でもスペイン大使館からの働きかけがあつて、昨年 4 月には、ロルカの研究者や愛好者を主体にした「ロルカ生誕 100 周年記念行事開催委員会」が正式に発足し、シンポジウム、ロルカ展の開催、詩の朗読会、戯曲の上演、フラメンコの公演、雑誌特集号の発行、記念番組のテレビでの放映等が企画され、準備が進行中です。それらの行事は、日本・スペイン両国間の文化的交流の促進に、きっと役立つことでしょう。

事務局からお願い

- ◎ 平成 9 年度の年会費を未納の方は、最寄りの郵便局でお振り込みくださるようお願いいたします。1 月末日までに納入いただければ幸いです。会費専用振込用紙をなくされた方は、事務局までご連絡下さればお送りします。振込み手数料はかかりません。
- ◎ フラメンコショーのチケットをまだお持ちの方は事務局までお返し下さい。
- * 協会事務局 朝倉 蒨
伴野芳信

*** お知らせ ***

* 三崎輝夫・甫子 ご夫妻より、第 3 回「さくら植樹」友好親善旅行に際し、30 万円もの高額なご寄付をいただきました。ありがとうございました。有効に活用させていただきます。

* 第 4 回スペイン写真展とアディオス 1997・フラメンコショーのお祝いとして、賛助会員のカサ・デ・フジモリ様よりリオハのモンテシージョを 2 ケースいただきました。ありがとうございました。

編集後記

第 14 回編集会議で読みやすく、写真ももっと取り入れてワカリやすく、イメージが膨らむようにしていきたいと決まりましたので、みんなで努力しました。 伴 野

* 投稿寄稿宛先 〒 221 横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2 かながわ県民センター内
神奈川県民活動サポートセンター
レターケース No.184 横浜スペイン交流協会会報係